

サービスマーケティングまっしぐら! 参加学生が報告する、 地域活動厳選9本

SERVICE MARKETING



学生たちが自ら作成した動画や
パワーポイントなどを駆使し発表を行った
「第2回 芸文短大・地域活動フォーラム」。
それぞれがサービスマーケティングへの
取り組みの有意性を発表し
総評でも高い評価を得た。



report.1

あしなが育英会

reported by 武南 愛 (情報コミュニケーション学科・2年)

あしなが育英会は、親を亡くしたり、怪我や病気で働くことが困難になった家庭への奨学金制度や、遺児達の心のケアを大事にした民間非営利団体だ。
あしなが育英会の活動内容は、主に3つある。1つ目の街頭募金は、芸短生が最も多く参加する活動だ。春に4日間、秋に4日間と年に8日間、トキハ本店前を拠点に大分駅前やセントポルタ中央町などに分かれて活動していると話して下さった。この募金で集められた寄付金の全額をあしなが育英会に寄付し遺児たちに奨学金として渡される。
2つ目のPウォークは、国内外の遺児達と一緒に歩きつつ交流を図る活動で、3つ目のつどいは、宿泊研修で遺児達が将来の不安などを吐き出せる場である。他にもいろんな形で世間に主張できる場をつくって活動を行っている。

written by 坪田 真紗子 (情報コミュニケーション学科・1年)



report.2

府内学生ECOフェスタ

reported by 赤池 すずか (情報コミュニケーション学科・2年)

市内の環境イベントにおける「市民参加」の不在を感じたことがきっかけとなりスタートした、府内学生ECOフェスタ。市民参加をどれだけ実現できるか。学生中心の運営は試行錯誤だったという。
当日はどのイベントも大盛況で、中でも世界一小さな花火大会では予想をはるかに超えた参加者が集まり、とても嬉しかったそうだ。また約三千個のろうそくによるキャンドルナイトでは、普段とは違う府内町の雰囲気をも市民の方々と分ち合った。
第一回目だったが予想以上に盛り上がったという。反省点も生かして、今後の大分の市民参加の場としてさらなる発展を期待しているそうだ。



written by 河野 鈴美 (情報コミュニケーション学科・1年)



interview

大分特別支援教育室
フリーリー理事長
梶原 陽子 氏

「良かった点の発見」

「しっかり準備をしていることが窺えて大変素晴らしかった。形にするということは、目に見えない努力が必要であり、言葉で表せないものがよく伝わってきた。また、それぞれ着眼点が個性で良い！背伸びし過ぎず、できることをやっていた点や、良かったところを発見していた点も良かった」と、どの発表も悪いところは一つもないと高評価を受けた。最後に「失敗を恐れてしまう反省点よりも、良かった面を発見することが大切だと思う。そうすれば人や社会の良さも発見できるようになる。失敗を恐れず、自分の好きなように生きて欲しい」とアドバイス頂いた。

written by 宮崎 ありさ (情報コミュニケーション学科・1年)



interview

鶴崎商工青年部
工藤 正浩 氏

「汗をかいて行動する大切さ」

「積極的に多方面で活動していて驚いた」工藤さんは開口一番にそう言った。SAEMON23の発表を聞いて「どの部門も最後までポイントをよく捉えていた。写真がスライドにされていたので当日の学生、お客さんの様子がわかったのがよかった」と述べた。竹田の食育ツーリズム研修では、「今回の発表の中で一番興味を持った。経験してみたいと思った。この活動は学生だけではなく、子ども達にもさせるべきだ」と語った。最後に「サービスマーケティングは素晴らしい活動なのでもっとPRしたほうがいい」と話して下さった。私たちの活動は、自分が成長できると同時に地域の特徴や抱えている問題をみんなに知ってもらうことができる。PR活動が今後の課題だ。

written by 天本 聖菜 (情報コミュニケーション学科・1年)



interview

竹田市国産原材料
供給・利用協議会
佐藤 知博 氏

「失敗して学ぶ、そして楽しむ！」

「多くの学生が積極的に活動していて良い印象を受けた」という。発表に関しては、「活動に参加したきっかけを付け加え、全体的に細かく数値化し、発表に抑揚をつけて演出するととってもいいものになる」とアドバイスを頂いた。「サービスマーケティングできっかけを貰った学生が、次は外の人へ興味をもってもらえるようになってほしい。また、自信のあるものこそ、共有して同じ経験をした集まりを通して、更に広げていくことが出来る」と語って下さった。「学びはさせられるのではなく、やってみて自分たちが失敗していくことで学びになる。どんどん失敗していいから、学生しかできないことを、とにかくはっちゃけて、めっちゃめっちゃ楽しんで！」と笑顔で話して下さった。

written by 中原 聡乃 (情報コミュニケーション学科・1年)